

(仮称)小牧市こども未来館整備基本構想策定業務委託プロポーザル実施結果

(仮称)小牧市こども未来館整備基本構想策定業務委託プロポーザル審査委員会を設置し、審査を行った結果、技術的に最適な者(以下、「最優秀者」という。)として、株式会社アール・アイ・エーを選定した。

1. 審査結果

最優秀者	商号または名称	株式会社アール・アイ・エー 名古屋支社
	代表者氏名	支社長 梅澤 隆
次点者	商号または名称	大建 met
	代表者氏名	平野 勝雅

2. 審査日程

項目	日程
実施要領の公告	平成 29 年 7 月 10 日 (月)
質疑受付	平成 29 年 7 月 10 日 (月) ~ 平成 29 年 7 月 14 日 (金)
現地説明会	平成 29 年 7 月 12 日 (水)
質疑に対する回答(市ホームページ掲載)	平成 29 年 7 月 20 日 (木)
参加表明書等の提出期限	平成 29 年 8 月 4 日 (金)
第一次審査	平成 29 年 8 月 8 日 (火)
第一次審査結果発表(第二次審査出席要請)	平成 29 年 8 月 10 日 (木)
第二次審査(プレゼンテーション及びヒアリングなど)	平成 29 年 8 月 22 日 (火)
第二次審査結果発表(通知・実施結果公表)	平成 29 年 8 月 30 日 (水)

3. 審査委員会

区分	職名	氏名
委員長	こども未来部長	小塚 智也
委員	都市建設部長(都市整備担当)	渡辺 学
委員	中部大学工学部建築学科 教授	豊田 洋一
委員	名古屋造形大学建築・インテリアデザインコース 准教授	溝口 周子
委員	小牧市こども・子育て会議委員代表	長江 美津子
委員	教育長	安藤 和憲

4. 評価基準

審査	評価項目	評価事項
第一次審査	1 参加資格	実施要綱に定める失格要件に該当していないか
	2 能力（業務経歴等）	事業者能力（有資格者数、主要業務実績数）、総括責任者能力（資格・経験・主要業務実績数）主任技術者能力（各技術者の資格・経験）
第二次審査	3 業務の実施方針及び提案等	方針の妥当性、業務の理解度、提案内容の先進性及び独創性、的確性、実現性
	4 取組み意欲等	取組み意欲及び業務体制

5. 審査経過

<第一次審査>（平成29年8月8日）

第一次審査により第二次審査の出席要請者として4者程度を選定する予定であったが、応募者3者に対し、第一次審査を行った結果、応募者3者すべてが参加資格を満たしていたため、3者を第二次審査の出席要請者とするものと選定した。

<第二次審査>（平成29年8月22日）

実施要領に示される評価基準に基づき、提出された技術提案書のプレゼンテーションの内容審査を行い、（仮称）小牧市こども未来館整備基本構想を策定するに最適な事業者を選定するため、事業者ごとに委員が点数による評価を行い、最優秀者1名、次点者1名を特定した。

6. 総評および講評

本プロポーザルは、（仮称）小牧市こども未来館整備基本構想を策定するに当たり、技術的に最適な者を特定するため公募型プロポーザル方式により実施した。

審査委員会では、業務の要件に十分に配慮されているかということについて、参加資格、能力（業務経歴等）、業務実施方針及び提案等、取組み意欲等の4つの観点から審査を行い、以下のとおり講評することに至った。

○最優秀者（受付番号2番、プレゼンテーション実施番号1番）

建物の構造を理解し、細部にまで建築の要素が感じられた。また、駅周辺の再生という課題もよく認識した提案であった。

優れた機能面の提案に対し、ソフト面の提案について具体性に欠ける部分はあったが、快適で明るく気持ちがいい空間を“緑”で繋ぐというコンセプトに基づき、

ワークショップによって中身を積み上げていくという、市民の意見を重視した提案であったことや、短いスケジュールの中で確実な実行が見込める提案であったことから、最優秀者として選定した。

○次点者（受付番号3番、プレゼンテーション実施番号3番）

ひとを育てるというコンセプトが温かみのある提案であった。

ものづくりを入口にした体験学習プログラムや、市民を巻き込んだ継続的な仕組みづくりなど、地に足の着いた提案は魅力的であったが、子どもの「遊び」における関連テナント導入に対する実現性や、業務の遂行体制などについて、最優秀者に及ばず、次点者となった。